

❖科目名Course Title			
人間と文化 私たちの世界：セックス・ジェンダー・セクシュアリティを考える（2019）			
❖担当教員Instructor			
瀬名波 栄潤			
❖開講学期Semester	前期	❖対象学年Year	1～
❖履修可能人数Capacity	制限なし（対面）	❖単位数Number of Credits	2
❖授業形態Type of Class	講義		

❖キーワードKey Words	
ジェンダー、セックス、セクシュアリティ、人文科学、社会科学、自然科学	
❖授業の目的Course Objectives	
❖授業概要Course Description	
文理融合型オムニバス形式で行われる授業の中で、セックス・ジェンダー・セクシュアリティという言葉の持つ意味と背景について理解を深める。そして、男女共同参画社会の実現という現代の課題に向けて「私たちの世界」を創る一員としての受講生自身がジェンダーについて考えるきっかけとしたい。	
❖到達目標Course Goals	
セックス・ジェンダー・セクシュアリティという概念を通して、有性生殖の生物学的起源から、男性・女性という二項対立的イデオロギーが持つ社会的歴史的背景並びに現状を批判的に理解し、性の多様性についても正しい認識を持って議論できるようになる。そして他者や自身のアイデンティティや行動を総合的に評価し、持続可能な社会を構築するためのグローバルな人材を創出する。	
❖授業計画Course Schedule	
<p><予定></p> <p>I. イントロダクション</p> <p>1. 「この授業の基本方針と概念整理」 瀬名波 栄潤（文）</p> <p>2. 「多様『性』への歴史」I 瀬名波（文）</p> <p>3. 「多様『性』への歴史」II 瀬名波（文）</p> <p>II. 人文社会科学の視座</p> <p>4. 「日本のサブカルチャーの中のジェンダー規範：20世紀後半と今世紀」蔵田 伸雄（文）</p> <p>5. 「法／裁判とジェンダー」尾崎 一郎（法）</p> <p>6. 「東アジアにおけるジェンダーとセクシュアリティ」池 炫周 直美（公政）</p> <p>7. 「教育とジェンダー」辻 智子（教）</p> <p>8. 「ことばとジェンダー」富成 絢子（広メ）</p> <p>9. 「日本の人口問題と生殖の政治について：グローバルな視点から」中地美枝（北星学園大）○レ</p> <p>III. 実世界の視座</p> <p>10. 「LGBTs～多様な性と社会：当事者団体の視座から～」工藤 久美子（L-Port）・瀬名波（文）ほか</p> <p>11. 「デートDV」志堅原 郁子（NPOピーチハウス）</p> <p>12. 「ジェンダーと性の健康」安積 陽子（保健）</p> <p>IV. 生命科学の視座□</p> <p>13. 「性の発現と多様性」勝 義直（理）</p> <p>14. 「性の決定と分化で見る男女差」黒岩 麻里（理）</p> <p>V. まとめ</p> <p>15. 「みんなで作る『私たちの世界』」瀬名波（文）</p> <p>16. 予備日</p>	

❖成績評価Grading System 毎回の授業の後、担当教員から講義に関連したレポートの課題を与える。レポートは出題から1週間以内に1階のレポートボックス（1番）に投函するか、次回の授業開始前に教室でTAに提出すること。レポートをワープロ等使用で別紙に印刷し提出する場合は、オリジナルの解答用紙とホチキス留めにして提出すること。欠席した授業のレポートは受け取らない。 成績評価については、各担当者によるレポート評価（1点から5点の5段階）の採点結果集計でおこなう。欠席時は0点になる。レポートは原則返却しない。成績は個人を特定できないようにして教室内で公表する。なお、本授業で案内される講演会等に参加しレポート（800字程度）を提出した者には、1回につき3点満点で評価し、エキストラポイントとして全体評価に加算する。 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート（10回×7点）：70%（得点が高い方のレポート10本で計算する） ・授業への貢献度：10% ・最終回授業「みんなで作る『私たちの世界』」授業案：10% ・出席：10% *欠席数が延べ4回以上の場合これを失う。*「出欠」を再読。 ・推薦講演会等のレポート（エキストラポイント）：（3点評価×提出数）%
❖テキストTextbooks 教科書は特にないが、随時プリント等を配布する。
❖参考書Reading List
❖準備学習Homework 予習は特に必要ないが、復習として、毎回レポート提出（1時間程度の作業量）を課す。
❖オフィスアワーOffice Hour
❖連絡先（E-mail）E-mail
❖質問・相談への対応方法Contact Information
❖履修上の注意Notes
❖備考Other Information 日本語による授業。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。（例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。）

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。